

## 四日市市内の戦争遺跡を見学 30人が参加・第3回戦争遺跡見学会 ～草むす中に海軍燃料廠の取水施設、地下貯蔵庫～

四日市市内にある戦争遺跡の見学会は快晴に恵まれた5月30日午後、約30人が参加して行われた。講師は、四日市市の職員として今年3月まで、文化行政、文化財調査に取り組んできた北野保さん。壊滅的な空襲を受けた都市だけに、鈴鹿市と比べ残された戦争遺跡は少ない。それでも、それだからこそ、こんな所に！という発見の驚きがあった。

### 《第二海軍燃料廠取水施設》

まず、案内されたのが、楠町本郷の鈴鹿川べりの畑の中に建ったコンクリート製の建物。塩浜にあった第二海軍燃料廠に水を送っていた「河原田第1ポンプ場」という取水施設だ。隣の畑地との境界に「海軍用地」と刻まれた標柱も残っていた。同燃料廠の取水施設はほかに2カ所あった。くみ上げられた水はいったん、泊山の貯水槽に集められ、浄水したあと海軍道路に埋設した管で燃料廠構内に送られたという。



この取水施設は戦後、農業用水として使われていたが、平成16年、北野さんが調査するまで、一部の地元の人たちを除いては燃料廠の取水施設として知られていなかったという。建物全体を蔦などが覆い、見過ごしてしまいそうな建物だった。

### 《同燃料廠地下壕》



北野さんの解説によると、第二海軍燃料廠が四日市市塩浜地区にできたのは昭和16年4月。海軍の航空燃料を生産する一大製造工場だった。第一海軍燃料廠は横浜市、第三は山口県徳山市、第四は福岡県新原町、第五が朝鮮・平安南道平讓府、第六が台湾・高雄市にあった。

塩浜は戦後、石油化学コンビナートに生まれ変わり、海軍燃料廠の面影は全くない。が、そこから約4.5キロ西、南部丘陵公園に近い丘陵斜面に、同燃料廠の燃料貯蔵庫(地下壕)があった。入口はコンクリートで閉鎖しており、北野さんの案内と説明がなければ、何に使われていたか、全く分からない構造物。「平和な公園のすぐそばにこんな戦争遺跡があるのです」と話された。

←旧燃料廠地下壕の前で説明をされる北野さん

## 《四日市空襲殉難碑》

昭和20年6月18日未明、89機のB29が襲い、一夜にして736人が犠牲になった四日市空襲。昭和55年6月、鶉の森公園に建てられた「四日市空襲殉難碑」を見た。「浜松、大牟田、鹿児島とともに、中小都市の空襲の第1号。海軍燃料廠があったためだ。

JRと近鉄の間の中心部は、天理教の建物を辛うじて残して全滅した」と北野さん。四日市にも長崎型の模擬原爆が投下された、という驚くべき事実も語られた。



このほか、**四日市市楠歴史民俗資料館**、諏訪公園から南部丘陵公園に移築された**市民壇**、実業家、熊沢一衛氏が寄付した旧四日市市立図書館がある**諏訪公園**を見た。

## 《参加者の感想》

- ・晴天に恵まれ、熱心な会員の方の車に分乗させていただき、四日市にもあった戦跡をご教示いただいたこと、深く感謝します。また、北野氏の冷静で懇切なご説明も大変わかりやすく、ありがとうございました。(80代、男性)
- ・現地見学だけでなく、北野講師の微に入り細に入りの説明で、いかに犠牲が多かったのか、また無駄をしていたのかよく理解できました。今後、津、伊勢ともタイアップして見学できればと思います。(70代、男性)
- ・ご厄介になる度に昔のことを思い出します。機会があればまたお願いします。ほかでは見られない所の見学ができ、ありがとうございました。四日市の戦争遺跡ははじめてでした。地下壕の実物は付近の開発でやがて見られなくなりそうで、文化財の指定がほしいように思いました。空襲殉難碑は事実を伝える上で大事にしていきたいと思いました。(70代、男性)
- ・私は戦中派でございまして、かなり辛酸をなめて参りましたが、この会に参加させていただき、「目からうろこ」の思いをいつもいたします。本日は四日市にも模擬原爆投下のお話を聞きまして身のすくむ思いです。最後の殉難碑では思わず手を合わせました。沢山の方々の犠牲の上で私どもの今日があるのだと思えば、絶対に平和の大切さを感じ、この会の理念を意義あらしめねばならないと切望いたします。(80代、女性)
- ・充実の半日、いい勉強会でした。天候に恵まれたことが何より。そして最初の訪問地ばかりで、大変有意義な勉強会でした。感謝します。戦後64年経過しても日本人として忘れることなく、この傷跡を後世に残さねばと思ひ、平和日本に徹することが何よりと思ひます。お世話様でした。次回もまたよろしく。(80代、男性)
- ・知らない四日市を見た今日の見学会で、平和の大切さをいままで以上に知ることができてよかった。(60代、男性)
- ・お天気がよくて何より。5月の最後の日曜日の過ごし方として、参加は大変意義のあることだと感謝のところでいっぱいです。戦跡マップをつくり、現在と後のちの人々が戦争と平和の意味を噛みしめ、平和な世界を語れるよう、歩一歩、ともに歩んでいきたいものです。(60代、女性)



## 「戦争と文学」

文芸評論家 清水信さん

清水信です。先ず、戦前、戦中に生きた庶民に戦争責任はあるのか、そういう問題を提起したい。軍国主義を推進させ長い苦しい戦争に突入せしめた軍閥や当時の政権・政商、また外国の領土に侵犯を繰り返した前線の将兵、これらの人は当然だが、我々庶民にも戦争責任はなかったと云えば、私はあったと考える。

敗戦後、いち早く「文学時標」など左翼系のジャーナリズムが「文学者の戦争責任を問う」という特集を企画。六十数名に及ぶ戦犯文学者の名前を公表し、その責任を問いつめた。その名には高村光太郎や斎藤茂吉、佐佐木信綱、獅子文六、小林秀雄らの名前もあった。高村や茂吉は東北地方に隠棲し、信綱は熱海にこもり、小林は転身した。小林さんは明治大学の教授でしたが辞表をたたきつけて教授を辞任した。どうして食っていくのかとみんなに聞かれて「これからは骨董で食う」と言った。戦争中は文学の注文は激減したし、敗戦後は戦犯として文筆活動を止めてしまった。青山三郎という骨董屋の友人に教わってその後の生活を骨董で支えられた。

この中に戦時中に海外から引き揚げられた方もいるかもしれない。私は米軍の上陸用船艇で九州の佐世保に上陸したが、上陸したら持ち物を全部取られて、ここ(頭)からDDTの粉をふられて国に帰りました。私は足かけ5年北京にいましたから、戦争犯罪らしきものはどう考えてもあったと思う。今日は「戦争と文学」というテーマですが、おもに「戦争と私」を話します。皆さんの手元に「XYZ181号」という雑誌をお渡ししているんですが、会員の中には戦争体験者やそうでない人もいて、戦争ということに関して書いていただいた。先ず自分とはどういうものであるか知っていただくために、戦争に至る前の私の生活を略述している文もあるので、河原徳子さんに読んでもらいます。(朗読略)

日本の言語は世界に冠たる「緊張言語」です。世界に日本しかない。言葉自体もしくはその言葉が組み合わされていくことで緊張感をあおっていく。緊張言語は戦争中に乱発されてある種の魅力があるのだが、そこに問題もある。ラジオと新聞で998回もの大本営発表があった、それはすべて嘘なのですが、緊張言語の特質として心に響くんですね。昭和16年12月8日の大本営発表でも緊張言語で書いてあるので国民が全部だまされた。12月8日の発表はみなさんの中には覚えている方がまだあるかと思います。大本営発表は昭和16年12月だけで88回、17年には年に252回、18年が174回、19年に218回となるが、戦況は不利になって昭和20年には極端に減って6月に2回、7月に2回、8月に3回となり、8月18日に連合国に日本が敗れたことはいっさい発表されなかったんです。口を閉ざしていた。高校野球、大学野球では応援団の鉢巻きに「一球入魂」と書くが、英語では長くなりますね。とても鉢巻きには皆書くことができない。戦争中には女将さん連中もみな「国防婦人会」「愛国婦人会」の襷を掛けて、普段はだらしのない女たちも素敵だと感じていました。

私の友人の西河克己が書いた「白い鴉」という戦争文学を紹介します。軍隊生活の実態を書いたものです。上官がカラスは白いといえばカラスも白いのです。上官の言ったことは天皇の言葉と同じであるというのが軍隊の実態です。軍隊は人権を曲げたばかりか真実を曲げてしまう組織でした。大変多数の人が戦死しましたが、その中にちらほらとリンチを加えた上官が戦場に行って背後から日本兵に撃たれたものも入っているのです。だから戦争を美化し、風化させてはならない。戦死者の中にはそういう人もいるのだ。

戦争遺跡を保存し平和利用する市民の会の動きは私は大賛成です。私は戦中派ですが、その前に戦前派がいて、その次は戦後派、次は戦無派で戦争を全く経験しない世代ですが、何とかして戦無派で戦争を終了させたいというのが念願ですね。また北朝鮮、米国、中国で何かきな臭いにおいが



する。また戦争の気配がするのです。せつかく戦後派になったんですから、戦後派でずっといたい。未来の時代の人と「戦前派」にしてはならないという気持ちが私の中に脈々とあります。

悪口を言いたくないのですが、東京への米軍の空襲は初めは軍需工場だけに絞られていたのに、それでは日本は降伏しないと、次第に無差別空爆になった。300機もの大編隊でめちゃくちゃに爆弾を落とした。焼夷弾は六角形の金属製に脂布を48個束ねていた。上空で破裂し金属筒が破れて中にあった樹脂を含んだ布が散乱した。東京の爆撃は4月13日・14日と続いたが、東京は壊滅状態になった。にも関わらず1964年に米国の指揮官に勲一等旭日大綬賞が与えられたが、日本の政府や新聞は一切ひた隠しにした。日本を空襲した300人余りの米兵に勲章を与えた。何と屈辱的な外交を続けていくものだと思う。

私は銃後とはいわない。銃後とは本来、戦争に協力したり、戦争に従事した人なんです。前線で戦った人よりももっとえらかったのです。「XYZ」の5頁に千人以上もの民間人の死者を出したことを記していますが、これを私は書齋に貼ってあります。なんということだろう。広島市で約14万人死んだが、その数だけの家庭が崩壊したということです。東京では10万人、大阪では1万人、名古屋では7800人が死んでいる。一人の人が戦死したということではない。その人のおかげで私が生きている。そういう思いを深くしています。

日本はやはり反省が下手で、忘れやすいのが日本人ですから、私も日本人でそれを恐れている。日本人は形式だけの、ポーズだけの真面目さ、誠実さを通してきたが、けれどもこれらは胸の奥底から本当に希求せねばなりません。私は今、新聞のコレクションをしている。男はコレクションが好きなんです、子どもの頃は昆虫採集、次に化石を集め、それに飽きたら切手収集をしたが、お金が続かない。大学時代はマドロスパイプを集めました。今は新聞の全面広告を100枚ぐらい集めているが、その1枚を紹介したい。今は記事よりも広告が多い。面白そうな4月4日はヨーヨーの日とかで、あほらしい。私はペーパーレスの時代で、新聞は10年も持たないと思うが、今は最後のあがきの時代です。新聞が読まれない時代です。とにかく新聞が減ることは明らかでジャーナリストやメディアの末期は暗い。モノが言えない時代が来るのです。

私は幸いにして目がいいので、この本の細かい「XYZ」を読めますが、小さい字を読んでなるべく目を酷使した方がよい。私は親に隠れて寝床で小説を読み、便所で詩集を読んだ。それらが役だって目が全く衰えない。耳で聞きながら何かをするのもよい。私は卒寿になりますが、皆さんもどうか長生きなさって下さい。今は100歳以上の人は日本に4万6千人いるが、その中で連絡がとれるのは7千人ぐらい、あとは意識がないか、ぼけて入院しているかで、またとうに死んでいるらしい。そういう人にならないように元気のままでいて下さい。つまり戦争を我々が風化させない、戦争遺跡を残して子どもたちに平和な時代を築いてほしい。こういう思いで皆さんがまともに長生きして下さることが大事なのです、ぼけないで下さい。

我々庶民に太平洋戦争下の戦争責任があったのかと問われれば、時代に抵抗できず、戦争に反対もできなかったことで、十分にその責任はあると思われる。二度と再びこれからの国民にあの苦しみを与えないように我々はモノを言い、戦争の真実を記録して次代の幸福のために戦っていかなねばなりません。

共に頑張っていきましょう。(終わり)

## 【総会・講演会の感想】

第2回総会と清水信氏の講演に対し参加者から寄せられた感想、意見、問題提起などを抄録します。

- ・若い世代へのアピールをどのようにしていくか、機会をもちたいと思います。XYZ 181 ページ6 (「戦記の疑問」) を頭にたたきこみながら・・・(50代女性)
- ・重点活動に対するロードマップの具体的な提案もあればと思います。(70代男性)
- ・ご準備、開講お世話様でございます。有益なお話をありがとうございました。清水先生の講話に魅せられて馳せ参じました。(70代女性)

- ・保存について関係当局に強く働きかけるということですが、具体的にどうするのか。この施設を保存するだけでなく「何をしたいのか」「何をすべきか」具体的な立案と提案をしないとインパクトがないのではないかと、思います。遺跡の単なる保存だけでなく、有効活用する企画が必要と思われます。相手は「土地利用転換計画」をしていることを忘れてはなりません。(70代男性)
- ・昨年参加できず残念に思っていました。清水先生の話に感心しました。(70代男性)
- ・清水先生の楽しい中に人生訓のある講演、ありがとうございました。現地現物見学(確認)の機会を多くつくって頂けたら、と思います。
- ・素晴らしい会でした。(70代男性)
- ・初めて清水先生のお話を聞いた。のっけから佐々木信綱批判は痛快であった。鈴鹿市は信綱を時ある毎にたたえている。その考えをいまだに引きずっているのだろう。先生の戦争に対する一つの考え方を知った。面白い話であった。「心の奥の叫び」を信じたい。(60代男性)
- ・清水信さんの講演では、戦争にまつわる文学作品、文学者、言葉について、清水さんご自身の軽妙な語り口を通じて非常に興味深かったです。「私は戦犯だから」というある種「自虐的」なセリフに実感と説得力が秘められていたような気がしました。日本語は緊張言語。大本営発表に惑わされぬよう、私自身も精進していこうと思います。格納庫の保存はいよいよ土地開発の事業がスタートしてしまったかと。時間は限られていますが、解体を防げるよう私も知恵をしばっていこうと思います。(20代男性)
- ・戦争を知らない私たち世代にとって実体験をもちこんだ話は目がテンになることが多いです。今日の清水先生の話もへーそーなんだ！が多かったです。今まだ残る人々の話をなんらかの形で後の人たちに伝えられるとよいのですが。(40代女性)
- ・特別決議案の内容はすばらしい事。広く訴え続けていくなれば必ず受けいれてもらえる内容と思う。“鈴鹿”を全国に発信する好機でもあり、鈴鹿市民が後世に残せる大変有意義な価値となる。私自身も注力していきたい。佐々木信綱の生地、石薬師小学校の校長から数年前にもらった、うの花が咲いていて妻と話した。そんな中、清水信さんの話が始まり、知らない戦中話、ユーモラスたっぷりの90歳とは思えない話ぶりに感心した。と同時に、戦争の悲惨さ、後世にしっかり伝えていく大切さも感じた。とても良かったです。(50代男性)
- ・終戦前の4ヶ月、軍隊生活(?)を送りました。なぜ日本が戦争を始めたのか、もし戦争をしていなかったら日本はどういう事になっていたか、という事を伝えていく責任を感じている者も少なくないと思います。日本の戦争のお蔭で独立できたアフリカ大陸の国も有るといふ書物を読んだ事もあります。戦争は悪いといいつつ今も戦っている事は何とも悲しい思いです。(80代男性)
- ・話は考えるきっかけ作りになった。人間は弱い生き物で強い物になびいてしまう。でも、自分の立ち位置を探るのが文学であり、他人の言葉、自分の体験を気づかせてくれる。戦時は弱い自分が作り出すと考えて、やっぱりそうなりたくないと思決意した。(60代男性)
- ・先生へ。お元気で講演、文芸活動をいつまでも続けて下さい。戦時中の敬礼など初めて聞くものもありました。私の父(81歳)は戦争へ行きませんでした。詳しい話を聞いていきたいと思います。楽しく聞かせていただきました。(50代女性)
- ・戦争を体験していない世代のなすべき役割を模索中。文学も知らないひとりの人間ですが、今日の講演、XYZに執筆されている清水先生から入門の入門としてわずかな一歩を歩めるように感じています。ありがとうございました。いつまでもお元気です！！  
(60代女性)
- ・格納庫保存はぜひ成功させたいですね。市長や市当局の気持ちを変えさせるような取り組みが工夫できればいいと思います。(60代男性)
- ・戦中時代のことを思いおこし、参考になりました。  
(70代男性)
- ・書齋の壁に死者の数を貼っている文学者の良心。清水先生のほんとうのここを大切にしたい。  
(60代女性)





# 鈴鹿市議会を傍聴に行こう！

## NTT跡地利用議会始まる

NTT跡地利用を審議する鈴鹿市議会の6月定例会は予定通り、6月3日開会しました。川岸光男市長が①防災公園整備事業の債務負担行為の補正予算（議案36号）②都市公園設置の区域の決定（同40号）③独立行政法人都市再生機構（UR）が市の要請で直接、公園整備をすることへの同意、のNTT跡地利用関連3議案について、淡々と説明しました。

傍聴者は7人。開会日は事務的に進むのでいつもは傍聴者はあまりいない、ということです。傍聴した会員の一人は「初めてのことでドキドキしました」と話していました。

### 関連議案の審議日程

11日(金)午前10時から 本会議 一般質問

午前10時～ 原田勝二議員 戦争遺跡の保存

午後2時～ 中西大輔議員 NTT跡地土地利用について

午後4時5分～杉本信之議員 防災公園街区整備事業について

16日(水)午前10時から 本会議 議案質疑

17日(木)午前10時から 建設水道委員会 議案審査

24日(木)午前10時から 本会議 討論、採決



### お時間がありましたら、ぜひ傍聴してください。

本会議の傍聴は、先着順です。傍聴席は、53席設けてあります。本会議の当日市役所14階の議会事務局で傍聴券を受け取りいただき、静かに傍聴席にお着きください。

## 『帰国』前売りチケット、23日から発売

8月21日、鈴鹿市民会館で公演する富良野GROUP『帰国』の前売りチケットが6月23日から発売されます。

▼前売り入場料＝5000円（当日5500円）

▼前売り取り扱い所＝鈴鹿市民会館、鈴鹿市文化会館、鈴鹿市観光協会、鈴鹿ハンター、宮脇書店鈴鹿店、亀山市文化会館、チケットぴあ。

▼問い合わせ先＝鈴鹿市文化振興事業団

（電話059-384-7000、ファクス059-384-7755）



### 編集後記

4月4日の総会直前、この会の1丁目1番地といえる格納庫の保存が脅かされる事態が出来たため、会報第5号はNTT跡地利用の特集号としました。

今6号はそのため留め置いた清水信さんの講演記録・参加者の感想と四日市市の戦争遺跡の見学会で作りました。次号は開催中の鈴鹿市議会6月定例会の報告を載せるつもりです。（竹内）

### 鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代表 加藤二三子、竹内宏行

〒510-0254 鈴鹿市寺家1-2-47

電話 059-388-6508

メール ta818hi@mecha.ne.jp

H P <http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm>